

あゆみ通信

VOL. 161

あゆみの会(真宗大谷
派大阪教区第2組同朋
の会推進連絡協議会)
会長 細川 克彦
広報 本持 喜康



暁烏 敏師

むずかしい經典の道理を、実生活の上に現してくださる古聖の伝記によって、道に接触するのは結構である。しかし、時代があまり遠く隔たっていると、どうも自分とその人との間の隔たりがあまりにも大きいように感じられて、やはり及び難しの嘆きに陥ることがある。ゆえに、近く現代においてその師を求め、經典や古聖の伝記をば、最も近く自分に接することの出来る人の上に眺めると言うことは、自分に感化を受ける最も善い方法であると思う。この時においても、やはりその人の人格を模倣するとか、あるいは讃仰するとか言う念を離れて、自己の心身の上にこれを味識すると言うことを忘れてはならぬのである。經典が古の聖人の上に光を現し、それがまた現代の人の上に光を現し、その光に接して自分の上に光の至れるを感じるようになる。ここに信仰の萌芽が生じるのである。(暁烏敏「仏教入門」1910〈明治43〉年より)

第2組聞法会

日時 8月27日(土) 14:00
会場 光照寺(天王寺区上汐)
講師 広瀬 俊先生
(17組 法観寺)
参加費 500円

共に学ぶ正信偈

日時 9月27日(火) 14:00
講師 新田修巳先生
参加費 500円

第2組門徒会と合同研修会

編集時点(7月中旬)で、コロナウイルス感染拡大が広がってきている状況で、開催が心配ですが、とりあえず、恒例の合同研修会を予定しています。ご都合のつかれる方は、ぜひご参加ください。なお、体調不安のある方は、無理をされませんようお願いいたします。

日時 9月6日(火) 13:30
(ただし、当日延期の場合は9月13日(火)を予備日とします)
会場 光照寺

(天王寺区上汐)
講題「南無阿弥陀
仏一人として生まれた意義をたずねていこう」

講師 松井聡先生
(門真市 心願寺)

コロナ感染状況によりましては、日程の変更や中止もあります。

なお、松井聡先生は、2014年10月の第2組聞法会でお話いただいています。

このあとの仏事予告

少し気の早い話ですが、先般の組会で決まった第2組からの行事のご案内です。

報恩講

日時 11月9日(水) 14:00
会場 即應寺(阿倍野区阪南町)
内容 お勤めと法話、同朋総会
講師 土井紀明先生
(第8組 念佛寺)

第38回第2組同朋大会

日時 2023年3月11日(土)
開会 13:30、受付13:00
会場 難波別院同朋会館
内容 お勤めと記念法話
講師 釈徹宗先生
(相愛大学学長、浄土真宗本願寺派如来寺)
参加費 1000円(記念品有)

親鸞のことば

自分の考えは絶対ではない

如来誓願の薬は、よく

ちぐ
智愚の毒を滅するなり
「教行信証」

新型コロナウイルスにもたらされた新しい生活様式によって、これまで行ってきた生活上のルールや自分の思いが、たやすく覆ってしまったことに驚きます。例えば、マスクの着用。これまでは着けないのが普通でしたが、今では着けて外に出ることが当たり前ようになっていきます。智者であれ愚者であれ、人間の持つ間違いのないという思い込み、それを親鸞は「智愚の毒」と言います。そんな我が身を問うために、たまには、お寺に足を運び、教え(薬)を聞いてみましょう。自分の考えや仕事の仕方、人間関係の在り方などを振り返る機会になります。

(名古屋別院「人生を照らす親鸞のことば」より)

9月号休刊のお願い

突然ですが、小生、かねてより変形性膝関節症の治療中でしたが、昨今、聞法会の往復にも支障をきたすほどになり、医者

の勧めで、人工関節設置手術を8月上旬に受けるべく、MRI検査をしております。(7月13日)

つきましては、聞法会にも参加が出来ず、入院を余儀なくしますので、術後のリハビリと併せて当分、編集作業が出来なくなります。

大変勝手をいたしますが、無事に手術を終えて、聞法会に参加できるようになりましたら、復刊をさせていただきますので、ご理解いただきますように、よろしくお願ひします。(本)

2023年宗祖親鸞聖人生誕
850年・立教開宗800年慶讃法要への第2組の団体参拝は3月28日(火)です。
ご希望の方は、お手次のお寺へ申し込んでください

朋友会との合同研修会報告 神保先生法話聞書 細川克彦(佛足寺)



神保先生は「出遇いの中で気づかされる私」という講題で、ご家族をはじめ、いろいろの人との出遇いによって育てられ、今日の自分があると言うことを話された。

大谷大学卒業後、縁あって就職した大和大谷別院で、当時輪番をされていた當麻秀圓先生(現、大和高田市 正行寺前住職)からは、勤め始めた頃、田の苗代を見て「あれは何ですか」と尋ねた時、先生は「苗代を知らんか。米と言う字は八十八と書くやろう。88もの手間がかかっており、また自然の恩恵も頂いている。お陰様と言うことを知って欲しい」と言われたと。

また、「寺という字は、十一寸と書くやろ。十寸と言うのは一尺やから、世間の尺度、常識である。お寺は世間の価値観を超えた如来様の智慧の世界に共に出遇っていきたいと言う場である」と。

また、別院の近くの篤信のYさんご夫妻が住んでおられて、お朝事や聞法の会にも良く参加され、親身に何くれとなくお世話になり、長いお付き合いの中でいろいろ教わったこと、懇意にさせていただいたことが忘れられないと。

また、大谷大学時代の先生で加来雄之先生からは、善いか悪いか、得か損かという世間の価値観から抜け出せなくて、困っていると打ち明けると、「自分をもっと、きっちりと問うことを忘れているのではないか。もっと、自分に向き合っていないのではないか」と。

また、先生の言葉「人生の辛さが仏法に遇う縁となり、そのことが人の歩みを深めていくのだ」と。

お寺を聞法の道場として、聞法を通して歩みを深めていくようになりたいと結ばれた。

紙上法話 大無量寿経の仏道⑨ 延塚知道先生

最近、少年の残酷な事件が多い。何であんなのか、よく分からない。でも共通しているのが、全部男の子。何でもやろう。あれはどちらかと言えば、母親に問題があるような気がする。一方的に決めつけたらあかんけど、可愛がり過ぎたんやないか。

それで思春期になると、誰でも独立していくでしょ。その時に、母親に可愛がられ過ぎるのが、男の子には嫌になるみたいや。それで爆発する。そんなことが、事件のレポートなんかに書いてある。

もちろん母親だけが悪いわけじゃなくて、父親も悪い。仕事ばかりして、知らん顔してる。だからどちらが悪いわけじゃないけれど、ともかく親子と言う人間関係の中で起こってきた事件や。

いろんな本を読んでいると「だれ一人、病気の人はいない」と書かれています。病気の人はいない。つまり病気と言うのは、自分がやろうと思うことと、やった結果とが合わんと言うのが病気だと。あんな事件は殺そうと思って殺しとる。だから、病気や無いんやね。

そうすると、病気や無いとしたら、性格に由来する。専門家が言うには、性格と言うのは生まれて育ってきた環境の中で作られて行く。と言うことは、生まれてきて育ってきた環境に問題がある訳です。それを一言で言うと人間関係の問題。

だから、この話は仏法の話なんだけど、それは本当は現代の問題なんです。人間関係がきちんと出来ていない訳です。お互いに足りないところを、埋めようとする。父親



が家におらず仕事ばかりして、母親は淋しいから、子どものところへ倒れや。寄りかかれた子どもは、えらい迷惑や。そういう関係しか作れない。

僕らはいつでも、足りないものを求めてどこかに行ったり相手に要求してしか、関係を作れなくなっている。そういう関係しか作れない私たちの中に、自体満足しているような人がおるといことです。

おじいちゃん、ボクはね

寺川先生と言う人はね、ユニークな先生ですよ。孫がおられるのです。おじいちゃんだったら、孫が可愛いでしょう。可愛いいいんです。財布の中に、いつも孫の写真を入れられる。だけど孫にべたべたしたり、抱っこばかりしない。寺へ

帰られたら、いつも「おー」と言って頭をなでる。そして自分の横に座らせて、こんな風にしゃべる。「このことについて、君はどう思う」小さい子にですよ。そしたら小さい子が「おじいちゃん、ぼくはね」て話だすんです。きちんと横に座らせてね、対等にしゃべっている。抱っこしてべたべたしてない。

そういうのを見ると、普通の人と少し違うと思う。お前も一人で生きていけよと、私も一人で生きてるんやから、一人一人が独立していて、それ自体で満足している人の人間関係が出来ているわけです。そういう人間関係に触れた時に、僕は自分が間違っていたんじゃないかと思う。鏡を見るように、教えられる。

(つづく)

